

京都・山科区●あきらめないがん治療 末期がんの人でもできる最新治療

腹腔内がん治療 レーザー光療法

医療法人社団 貴正会
村上内科医院 院長 村上 正志 医学博士



PROFILE 村上 正志(ムラカミ・マサシ)

京都府立医科大学卒業。
 元京都府立医科大学客員講師。
 統合医療、抗加齢医療、点滴療法、ハイパーサーミア(温熱治療)等、幅広い視点から、がん治療に取り組んでいます。

がん性腹膜炎により、余命宣告やホスピスを勧められた人には負担の少ない腹腔内(胸腔内)がん治療を行い、5年以上の長期延命の効果を多数認めている。

さらに腹腔内がん治療の効果が不十分な方や外科手術ができない方に対してレーザー光を用いた最新の治療も導入して効果を認めている。

現在も全国からたくさんの方の相談・治療に応じているが、手遅れになる前(腸閉塞・黄疸、羸瘍等)に少しでも早くの受診を勧めている。

キーワードはがん性腹膜炎、腹腔内がん治療、光感性物質、レーザー治療。

もう治療が無いと言われても
 お腹には様々な臓器があり、そこから発癌します。がんが大きくなるとがん細胞が散らばり(腹膜播種)やがて腹水が発生し、最終的に腸閉塞、黄疸などがおこると短期間で命の危険な状態に至ります。

腹腔内がん治療とはお腹の皮下に埋め込んだカテーテル(ポート)から直接抗がん剤を投与する治療法です。(ポートの留置手術は保険適応です)

腹腔内がん治療は一般的に行われている点滴の全身化学療法に比べ、腹腔内のがん細胞に直接効くため腹部症状に対し効果が得やすく、かつ抗がん剤の使用量も少ないため、副作用が少ない治療です。そのため治療法がなくなり、ホスピスを勧められた方、高齢の方でも当院では治療を積極的に行っています。

さらにレーザー光により、死滅したがん細胞の特徴を免疫細胞が認識し、離れた部位にあるがん細胞に対する効果も期待できます。また、驚くことにレーザー光は、出力を変えることで様々な疼痛(腰痛、膝関節痛、股関節痛、痛風発作、ヘルペス結節など)に対する消炎・鎮痛効果を示しており、今後の可能性が、非常に期待される治療です。

がん性腹膜炎により、余命宣告やホスピスを勧められた人には負担の少ない腹腔内(胸腔内)がん治療を行い、5年以上の長期延命の効果を多数認めている。

さらに腹腔内がん治療の効果が不十分な方や外科手術ができない方に対してレーザー光を用いた最新の治療も導入して効果を認めている。

現在も全国からたくさんの方の相談・治療に応じているが、手遅れになる前(腸閉塞・黄疸、羸瘍等)に少しでも早くの受診を勧めている。

キーワードはがん性腹膜炎、腹腔内がん治療、光感性物質、レーザー治療。

もう治療が無いと言われても

お腹には様々な臓器があり、そこから発癌します。がんが大きくなるとがん細胞が散らばり(腹膜播種)やがて腹水が発生し、最終的に腸閉塞、黄疸などがおこると短期間で命の危険な状態に至ります。

腹腔内がん治療とはお腹の皮下に埋め込んだカテーテル(ポート)から直接抗がん剤を投与する治療法です。(ポートの留置手術は保険適応です)

さらにレーザー光により、死滅したがん細胞の特徴を免疫細胞が認識し、離れた部位にあるがん細胞に対する効果も期待できます。また、驚くことにレーザー光は、出力を変えることで様々な疼痛(腰痛、膝関節痛、股関節痛、痛風発作、ヘルペス結節など)に対する消炎・鎮痛効果を示しており、今後の可能性が、非常に期待される治療です。

これは、がん細胞に集積しやすく加工(リポソーム化)した光感性物質を点滴し、それが蓄積した腫瘍に対して、レーザー光を照射します。レーザー光は、放射線治療(陽子線・重粒子線含む)とは異なり、他の正常細胞へのダメージはありません。光感性物質が、蓄積したがん細胞にのみ反応し、がん細胞を特異的に死滅させるため、副作用が少なく、安全に治療を行うことができます。



腹腔内がん治療

高濃度の抗がん剤でがんが消失する!!

医療法人社団 貴正会

村上内科医院

<https://murakaminaika.com/>

*点滴療法(自由診療)は完全予約制となります。

所在地◆京都府京都市山科区四ノ宮垣内町1

電話◆075-501-2551

治療についてのお問い合わせ

075-591-4722(本部)